

第 10 回一関地区かわまちづくり協議会

日 時：令和5年7月28日（金）
14 時～16 時

場 所：一関保健センター 多目的ホール

<次 第>

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 挨拶
4. 協 議

- (1)第9回協議会のまとめ
- (2)一関地区かわまちづくり全体整備計画の修正事項
- (3)磐井川緑地の親水空間について
- (4)水辺プラザの整備について
- (5)社会実験の経過と予定

5. 閉 会
-

一関地区かわまちづくり協議会委員

【順不同・敬称略】

No	種別	所属・団体名等	役職等	氏名	出席	欠席
1				さとう とうき 佐藤 昶僖	○	
2				ちば あきひこ 千葉 昭彦	○	
3				もも まさひろ 百々 正博	○	
4				おのの かつお 小野寺 和雄	○	
5				さいとう かずとも 齋藤 一公		○
6				ささき よしかつ 佐々木 良勝		○
7				ささき ゆうこ 佐々木 裕子		○
8				ひらの かずひこ 平野 和彦	○	
9				おのの かつお 小野寺 浩樹 (代理: 鈴木純香)	○	
10				さかした たつし 坂下 立志	○	
11				いとう たくや 伊藤 拓也	○	
12				ほそかわ ゆうじ 細川 雄司		○
13				たてお えいし 立尾 英司	○	
14				いわぶら きいちろう 岩渕 喜一郎	○	
15				やまがし まなぶ 山岸 学	○	
16				すだ みつひろ 須田 光宏		○
17				ささき しよこ 佐々木 承子	○	
18				さいとう ひろみ 齋藤 裕美		○

12 6

一関地区かわまちづくり協議会アドバイザー

種別	所属・団体名等	役職等	氏名	出席	欠席
国	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所工務第一課	課長 (代理: 専門調査官)	ごとう じゆんいち 後藤 淳一 (代理: 小原竜光)	○	
	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所一関出張所	所長	ごないかわ しんじ 五内川 真司	○	
県	岩手県南広域振興局土木部一関土木センター	所長	きたむら やすし 北村 安	○	
NPO法人	両磐地域まちづくり探検隊	隊長	かみさき ひろゆき 神崎 浩之	○	

4

事務局

種別	所属・団体名等	役職等	氏名	備考
事務局	一関市建設部	部長	わたなべ 敏彦	事務局長
	一関市建設部都市整備課	部次長兼課長	いとう 吉光	事務局員
	一関市建設部都市整備課都市整備係	課長補佐兼係長	あらい 美香	〃
	一関市建設部都市整備課都市整備係	主任主査	いとう 寛	〃
	一関市建設部都市整備課	会計年度任用職員	ちば ひろこ	〃

第10回一関地区かわまちづくり協議会 説明資料

令和5年7月28日
一関市

【第6回やまのめ桜まつりの様子(2023年4月16日)】
(当日は“まちあるき体験ツアー”を同時開催)



① 磐井川緑地のリノベーション設計について

- 川のイメージが向上している。水辺プラザエリアもより身近に感じられるようになって欲しい。
- 堤防に昇降する箇所には以前のように手すりを設置して欲しい。
- 川と親しむ行事が通年で開催されるようになると良い。

② 磐井川緑地について

- 現在の渡河工周辺に親水空間をつくる考えは面白いと思うが、安全性を第一に考えていただきたい。

③ スケートボードパークの整備について

- 雨天時には東大橋の下に駐車すると便利であったが、駐車場としては使えなくなるのか。
→スケートボード専用の舗装とすることから駐車場としては使用できなくなる。

④ 社会実験団体の募集について

- 仙台の定禅寺のように月に一回程度はキッチンカーも出店してのライブができると良いと思う。その際、電源が課題となる。
→社会実験の中で確認の上で要望をかなえる方向で考えたい。
- コロナ対策の考えはあるか。
→県の通知を確認の上で実験団体の皆様と話し合うことを考えている。
- 応募の条件で災害時の避難などハードルが高く単独の団体では応募が難しい。
→課題となる事項については一緒に協議させていただければと思う。

⑤ その他

- まちの中に磐井川があることは誇りであり、歴史や川の危険性をどこかに展示することを含めて、楽しみながら学んでいって欲しい。

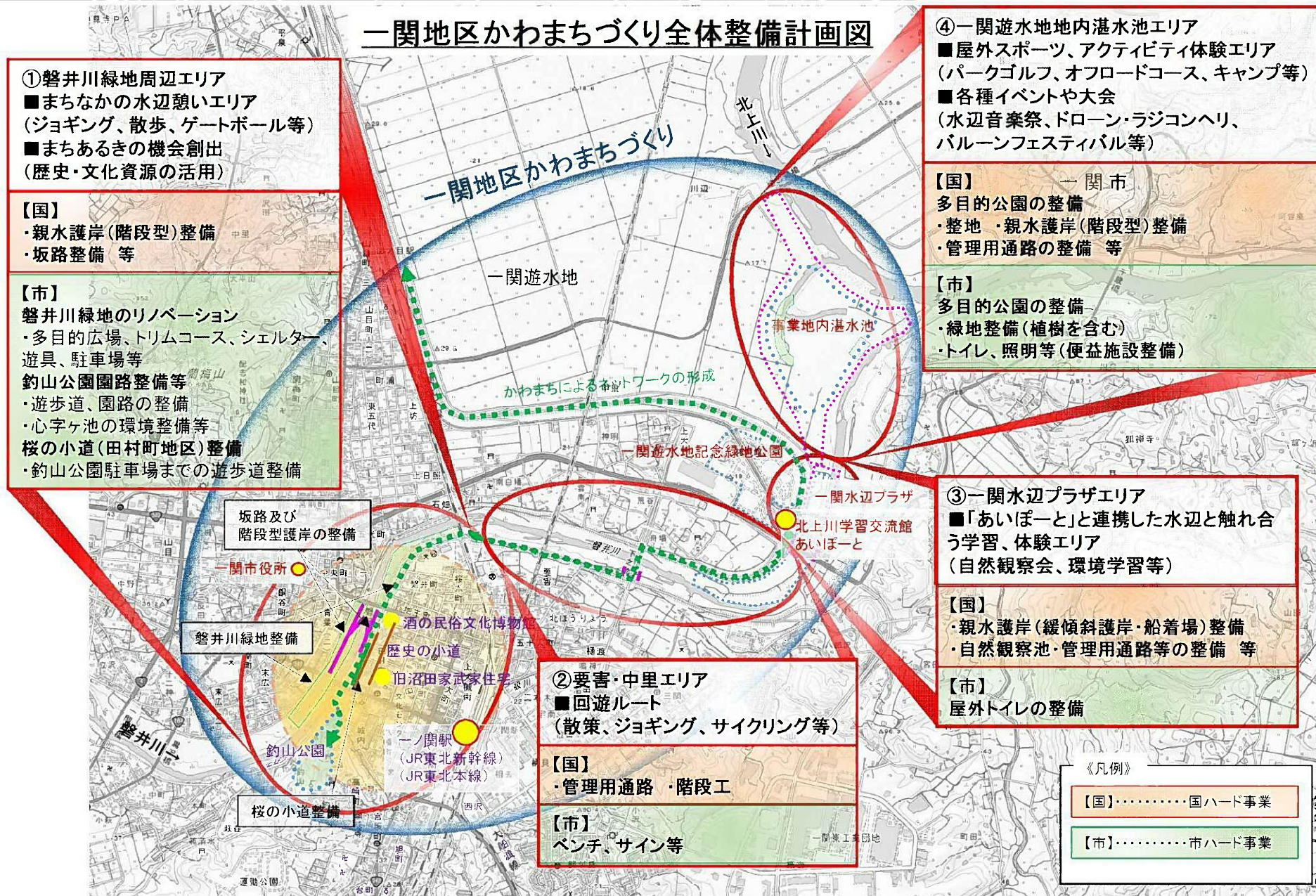
(1) 変更の必要性

一関地区かわまちづくり計画では、令和2年の計画登録時から3年が経過し、この間協議会での議論を通じて各種整備が進められた中で、河川空間への新たな利活用の付加や、当初の想定とは異なる利活用方法の検討の必要が生じている。

(2) 追加・修正事項の概要

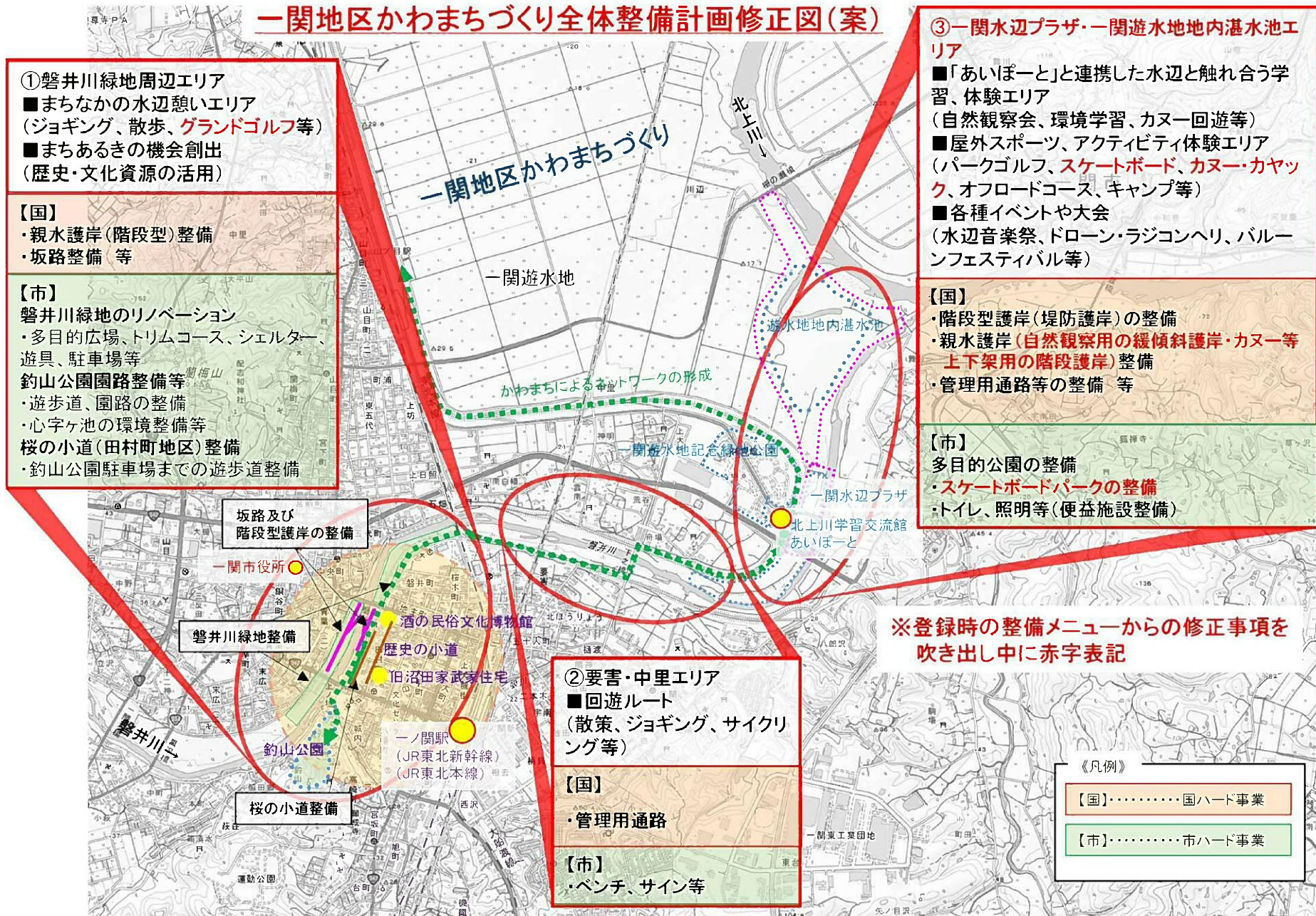
項目	追加・変更事項の概要
【1.磐井川緑地周辺エリア】	
渡河工周辺の計画	かつての水辺利用のような親水空間の復活
釣山公園、田村町の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・(市)「桜の小道」については田村町内整備は完了しており、釣山公園駐車場までの整備の延長を地元より要望されているが、整備内容については必要性を検討していく ・「釣山公園園路整備等」については、整備の優先度を図りながら必要性を検討していく
【2.要害・中里エリア】	
右岸下之橋下流部への階段設置	<ul style="list-style-type: none"> ・サイン設置個所については現地を精査の上で設置個所・内容について今後協議会にかけていく ・階段整備に代わり横断歩道設置で要望中(サイン等の設置個所については今後精査していく)
【3.一関水辺プラザエリア】	
親水護岸	(概ね当初計画通りの整備)
スケートボードパークの整備	(市)当初計画に具体的な整備計画は記載されていないが、関係各課ヒアリングにおいて整備要望があり、水辺プラザ活用計画のひとつとして具体的な計画となった
下流部河川敷の利活用	(市)水防演習後の具体的な利活用について庁内外の関係部署と協議を進めていく
【4.一関遊水地地内湛水池】	
利活用の検討	(市)当初計画外となる水辺プラザエリアの水防演習後の造成箇所利活用について、一体的活用を検討していく必要がある

(3) 全体整備計画図(登録時のもの)

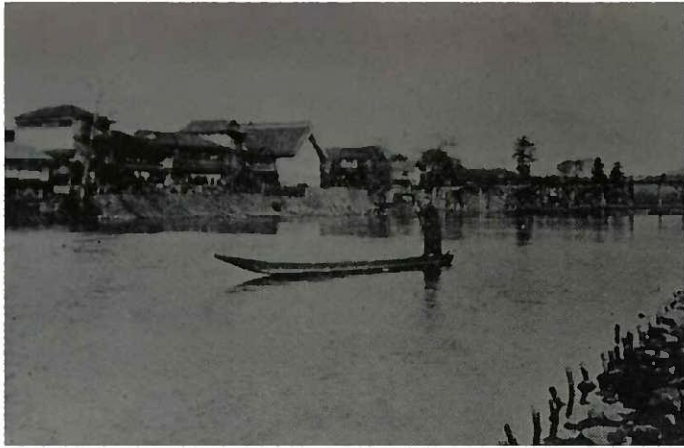


(4) 全体整備計画図(修正案)

一関地区かわまちづくり全体整備計画修正図(案)



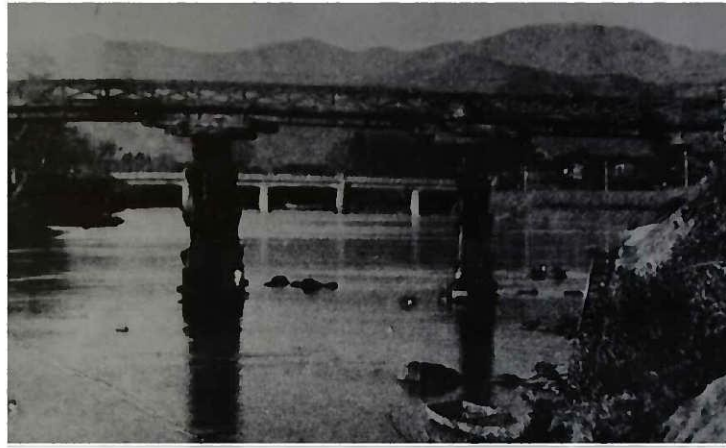
(1) 過去の水辺の状況(古写真などに見る水辺その1)



上の橋下流右岸より磐井橋、対岸は花川戸遊郭(明治41年)

【出典:ふるさとの思い出写真集明治・大正・昭和一関・平泉(編:八巻一雄)】

遊郭下の石積み護岸まで川幅いっぱい水を湛え小舟も浮かぶ。手前の川岸には木杭が見られる。明治25年に来関した幸田露伴は、「磐井の河の假橋渡れば、花川戸とかや申して主に旅の衆に投げの情をかけまくもかしこき手管ありやなしや女郎(ひめ)達の居玉ふところなり。」と紀行文に記している。



上の橋上流右岸より下流側(昭和初期)

【出典:ふるさとの思い出写真集明治・大正・昭和一関・平泉(編:八巻一雄)】

川幅いっぱいに滯筋が広がり小舟も見られる。河川敷は見られない。



磐井橋上流左岸の磐井川水天宮(昭和20年頃)

【出典:ふるさとの思い出写真集明治・大正・昭和一関・平泉(編:八巻一雄)】

戦線の拡大により女学校の勤労奉仕が行われた。この写真は磐井川水天宮下の川原からのリレー式石運びの様子。護岸は2段となっており下段は雑割石の谷積みで肩部が巻天端仕上げ、上段は下段よりも新しい間知石の布積みのような様子。

コラム:磐井川の舟運について

明治18年5月、盛岡有志の手で北上回槽会社(盛岡市にあった舟運会社)ができ、石巻・弧禅寺間に定期汽船運航が開始された。一関では、現在の東北本線磐井川鉄橋付近を発着場として、輸出入品運搬用の小船が運航されている。輸出入品の集出荷場として、弧禅寺・一関間を往復したものである。

明治23年、鉄道東北本線全通以降、舟運は桁違いに輸送力のまさる鉄道に押され、全盛をきわめた北上回槽会社は次第に衰え、明治30年以降は弧禅寺・舞草の運送店に運送取り扱い方を委託し、艀舟(ひらたぶね)を用いて運航されていた。

大正14年7月の大船渡線の開通と、また一関・弧禅寺間に貨物自動車が出始め、磐井川舟運は全く消滅したという。

【出典:一関市史第4巻地域史(一関市)】

3. 磐井川緑地の親水空間について

(1) 過去の水辺の状況(古写真などに見る水辺その2)



一関一高裏のボート乗り場
(昭和43年)
【出典:岩手日日新聞昭和43年4月28日記事】
5月を前にして早くも磐井川にボートがお目見え。川原では高校性がスポーツの練習をし、昼休み時には市民が憩いに来ている姿も目立つ。清流のボートは夏の風物詩であったとのこと。



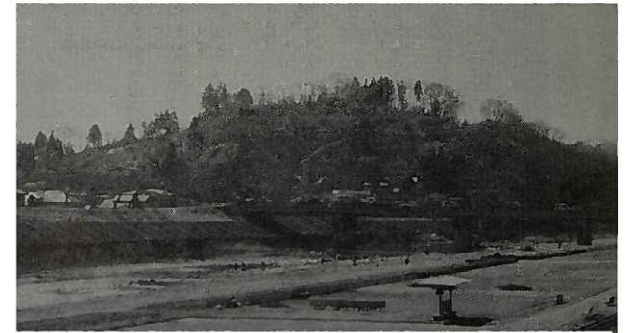
上の橋上流左岸(いものこ会で楽しい一日)(昭和49年)
【出典:広報いちのせき第200号 昭和49年12月1日記事】
記事は山目小学校の「ことばの教室」(中里小、一関小、相川小の児童も参加しての勉強会)の親睦会の様子。水辺に近い川岸でのいものこ会は楽しそうである。



上の橋上流左岸(磐井川原の水道で炊事をする一関小のおともだち)(昭和51年)
【出典:広報いちのせき第249号 昭和51年12月1日記事】
記事は磐井川河川公園の整備によりサイクリングロードの完成を伝えるものである。この年の秋は写真の給水施設を利用しての飯ごう炊さんで毎日大変な賑わいがあったとのこと。



磐井川原での水難救助訓練(昭和53年)
【出典:広報いちのせき第286号 昭和53年6月15日記事】
地主町スポーツ少年団は毎年磐井川原でキャンプ大会を行っており、川原にテントを張り映画やキャンプファイヤーを楽しんでいた。水難救助訓練は消防署員の指導で水難救助の方法を勉強したとのこと。



左岸側堤防上より上の橋と釣山方面(平成11年以前)
【出典:磐井川-その流れに沿って-(田村の里研究会)】
低水護岸よりも川側においても、川原に佇む方や水辺に近寄っている方が大勢見られる。

コラム:小学校のプール

「関小の5~6年生の体育には水泳教室があり、先生を先頭にプールまで砂利道を歩いて行った。プールへの下り口は竹やぶで、その中で着替えをする。水位は頭が出る位か。夏休みには講堂の屋根の上の国旗掲揚塔に、プールに入っている日は白、だめな日は赤の旗が結ばれていて、須川の噴火(昭和19年)で泳げなかったときは恨めしかった。」

当時の記録から、一関小学校の遊泳場は吸川の合流付近、山目小学校はげんない淵、中里小学校は東北本線鉄橋と下の橋の間でと、それぞれ磐井川を利用して水泳を楽しんだようである。

【参考:磐井川-その流れに沿って-(田村の里研究会)より久保田丈夫さん談から編集】

3. 磐井川緑地の親水空間について

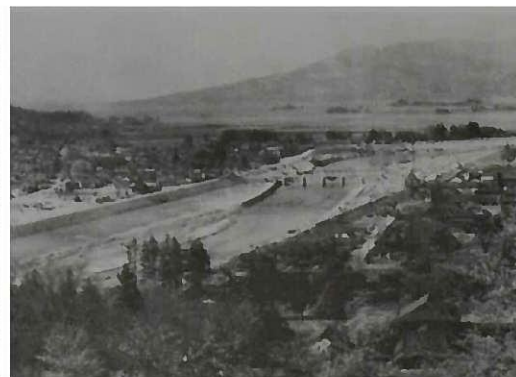
(2) 過去の水辺の状況(釣山からの眺望景の比較)



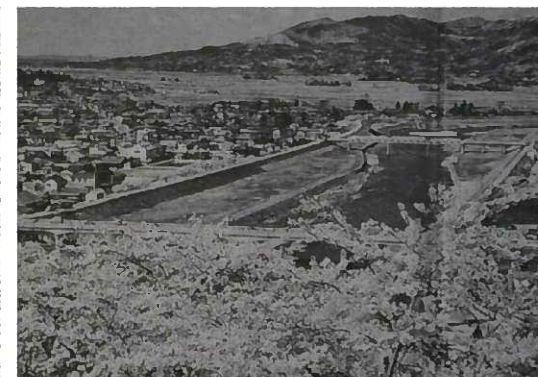
昭和21年
【出典:一関の年輪】
両岸は切り立った堤防であり、川幅いっぱいに滞筋が広がっている。



昭和23年9月
【出典:一関の年輪】
水害によって堤防と上の橋が破壊されている。



昭和23年から数年後
【出典:カスリン・アイオン台風60年記念誌】
川幅が拡張され、低水護岸と河川敷が形成されている。



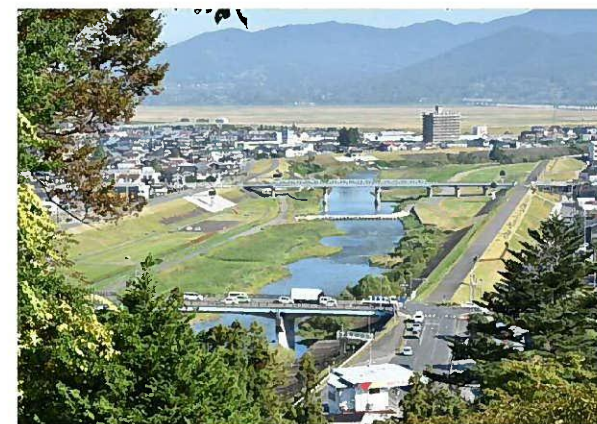
昭和44年
【出典:市政要覧】
山目側にサクラが見える。低水護岸前面に河原が形成されているが、現在よりも小さい。



平成元年
【出典:一関の年輪】
左右岸の堤防上に成長した桜並木が形成されている。左岸の上の橋直下流部に礫浜が大きく形成されている。



渡河工が架けられる前
【出典:一関市写真集 郷の煌き】
左岸側の低水護岸下の河原が、平成元年写真と比較して下流側へより広がっている。



令和元年
渡河工施工前と比較して、左岸側の河原がより広く堆積していることがわかる。

(3) 親水空間の参考事例

① 中津川(盛岡市)(前回協議会資料既出)



- 磐井川の当該候補地においては、上記中津川の事例写真と比較して流速が速いことから、積極的に川を渡らせることを目的とした施設とはせず、「水辺に近づける、増水していない時には足を入れることもできる」といったことを目的として整備内容を検討していく。
- 水辺へアクセスし易い河岸を整備することで、神輿の渡河などの祭事における活用の利便性向上を期待することもできる。

② 矢作川(愛知県豊田市)



- 自然なままの河岸は発見の喜びに満ちていることから、整備し過ぎることなく、アクセスを向上させることが肝要である。

(4) 親水空間設置の考え方

① これまでの協議会での意見

【第8回協議会】

- 当地の歴史を伝えるような施設を整備できると良い。

【第9回協議会】

- 現在の渡河工周辺に親水空間をつくる考えは面白いと思うが、安全性を第一に考えていただきたい。

② 過去の水辺の状況からの考察

- 水害前は川幅いっぱいが滞筋であり河川敷が無い状態であったが、現在の東北本線橋梁付近までは艀舟(ひらたぶね)が航行し、上の橋～磐井橋間においても小舟が浮かぶなど、風情のある水面利用がなされていた。
- 水害後に川幅が拡張されると河川敷ができ、その利用と合わせて水際部においても様々な利用が行われていた。一方水面利用については、流量が減少したこともあってのことと思われるが一高前のボート乗り場といった限定的な利用のみとなった。
- 改修工事のための工事用通路(渡河工を含む)が設置されてからは、水際部への立ち入りができなくなり、草が繁茂した状態となっている。



【磐井橋から上流方向(現状)】

- 右岸側(上写真左側)の水辺には既設の階段が整備済みである。(青○部)
- 左岸側(上写真右側)の水辺へのアクセスの向上が望まれる。(赤○部)

③ 求められる水辺空間のあり方

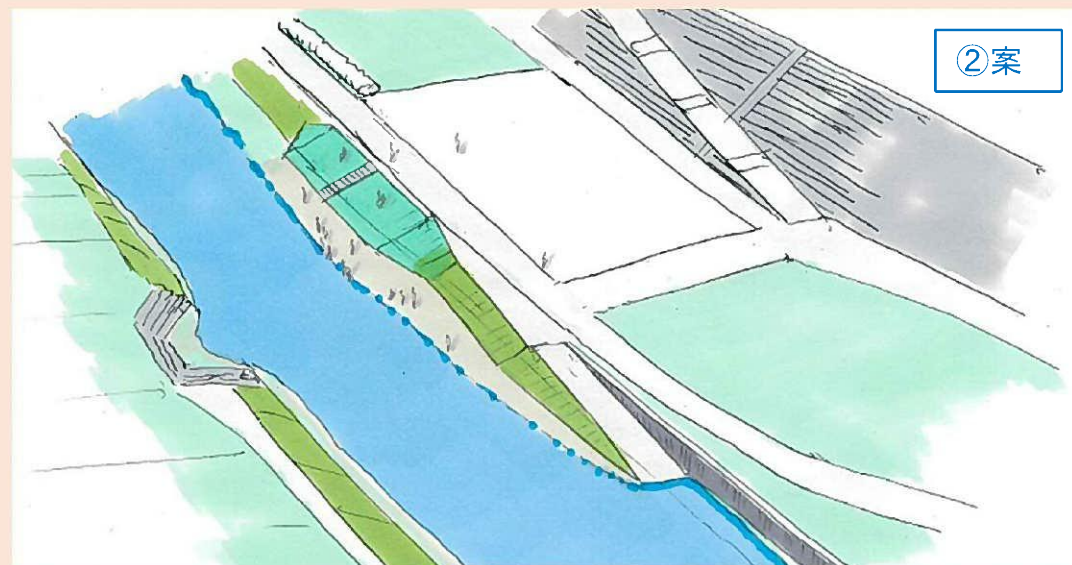
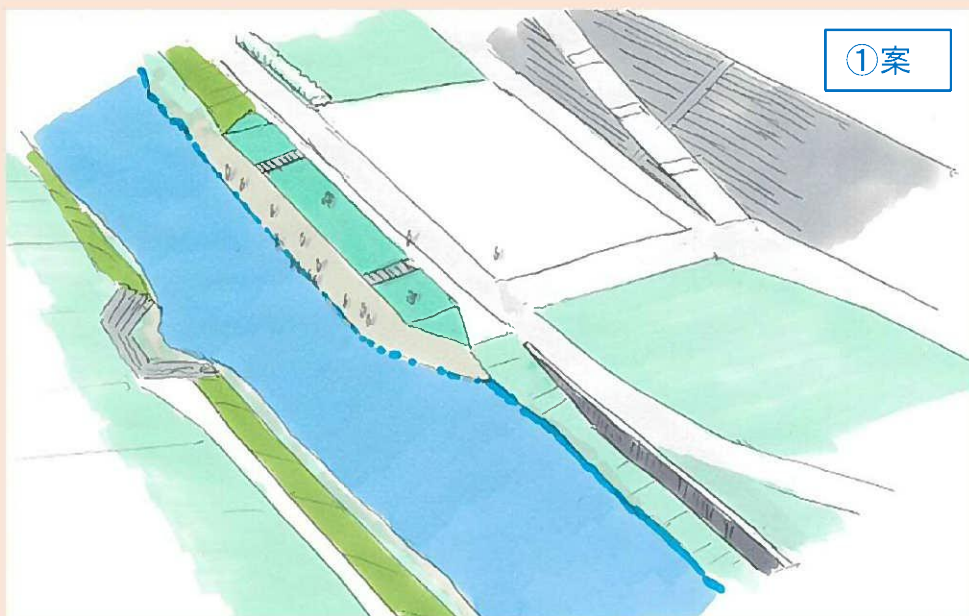
- 前述の通り、かつてのように河川敷と一体となった岸辺の利用が可能となる。
- 堤防への階段護岸及び坂路の設置が行われ、市が進める磐井川緑地のリノベーションにおいても当該箇所が利活用を中心として位置づけられていることから、この前面に親水空間を位置づけることが有効と考えられる。
- 安全性に配慮しながら親水を目的として水際部へのアクセスを向上させるものとして考える。

(5) 親水空間整備のイメージ

【イメージスケッチ】

<親水空間整備の一例>

- 草刈り等維持管理が行い易い緩傾斜の法面勾配
- 緩傾斜の法面と水辺の間の礫浜を平滑に整正し利用し易くする

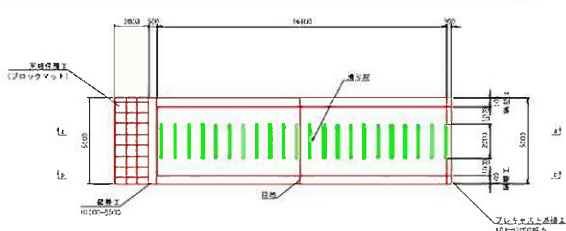


4. 水辺プラザの整備について

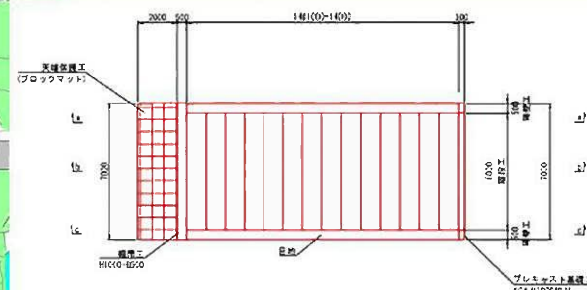
(1) 親水護岸の整備(国整備)

【A案】階段の整備とあわせて上流側に上下架用の坂路を設ける案

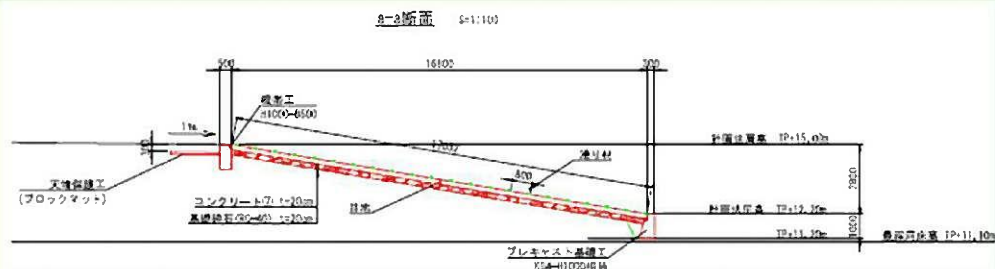
スロープ部平面計画



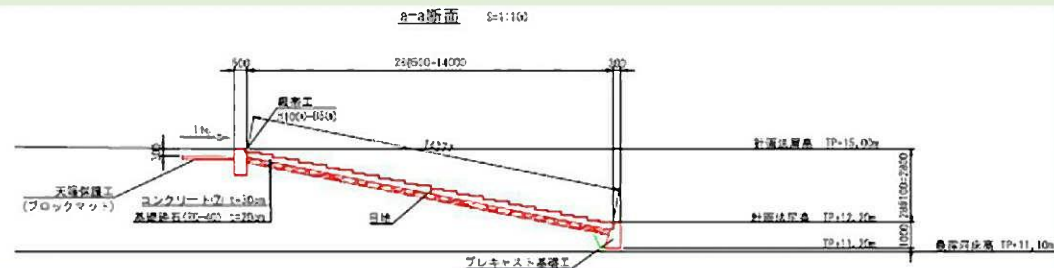
階段部平面計画



スロープ部横断計画



階段部横断計画



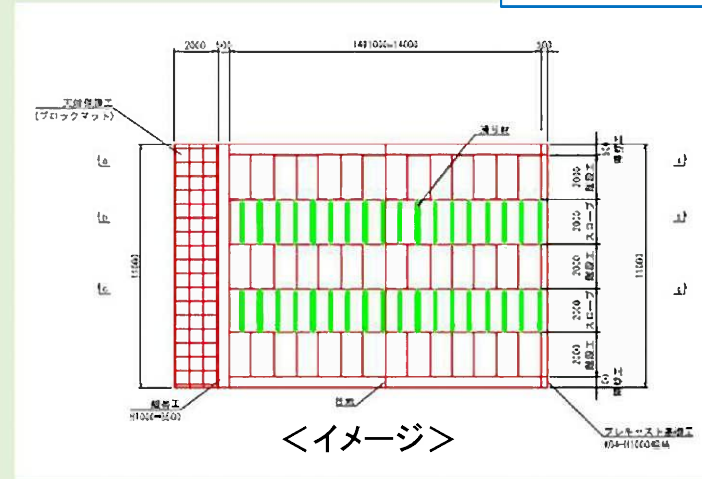
- カヌーやカヤック、SUP等の上下架用の階段の整備とともに、ゴムボートや川舟に対応可能なスロープを階段の上流側に設ける案であり、幅広い艇種の上下架に対応可能
- スロープを階段とは別構造とした上でスロープの勾配を緩くすることができ、車両の牽引による船舶の上下架が容易となり、より大型の川船やゴムボートなどに対応可能となる

(1) 親水護岸の整備(国整備)

【B案】階段の間に上下架用坂路を設ける案



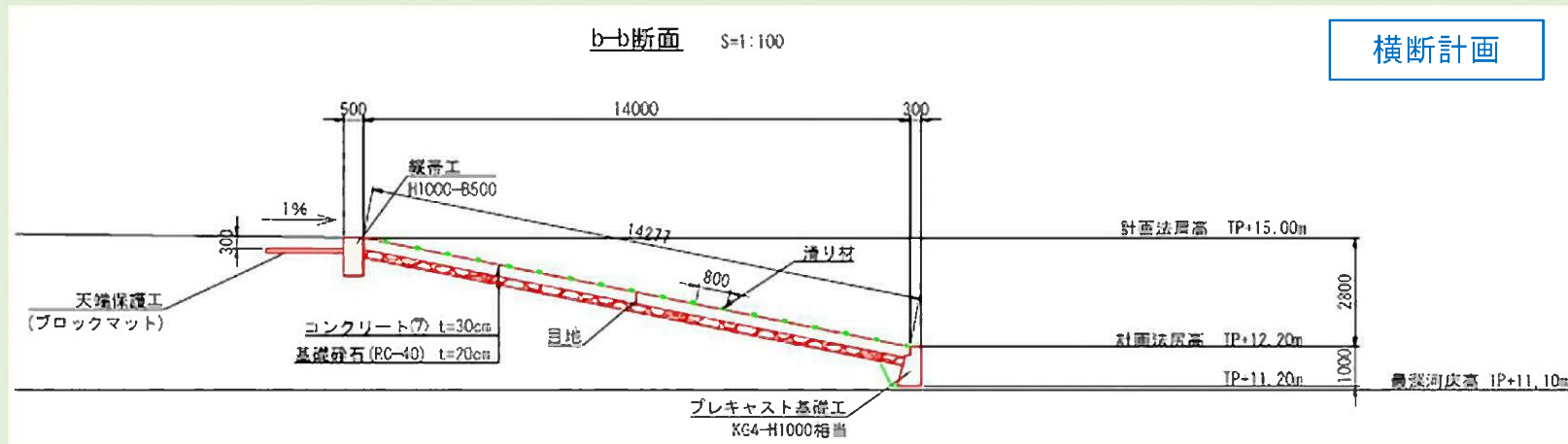
平面計画



<イメージ>

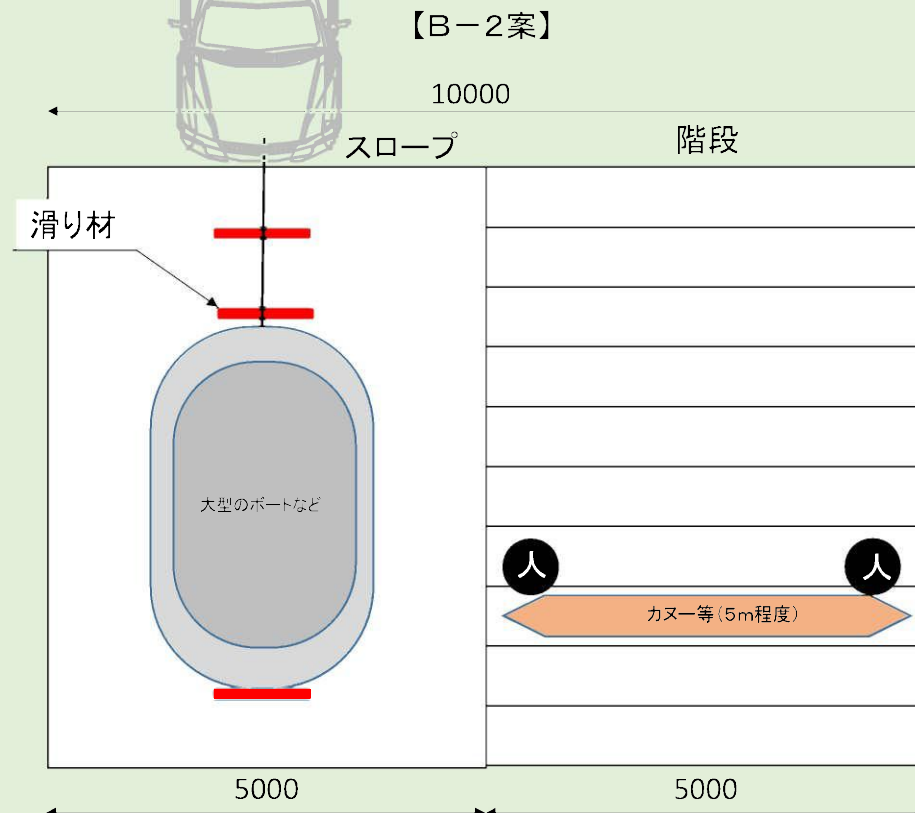
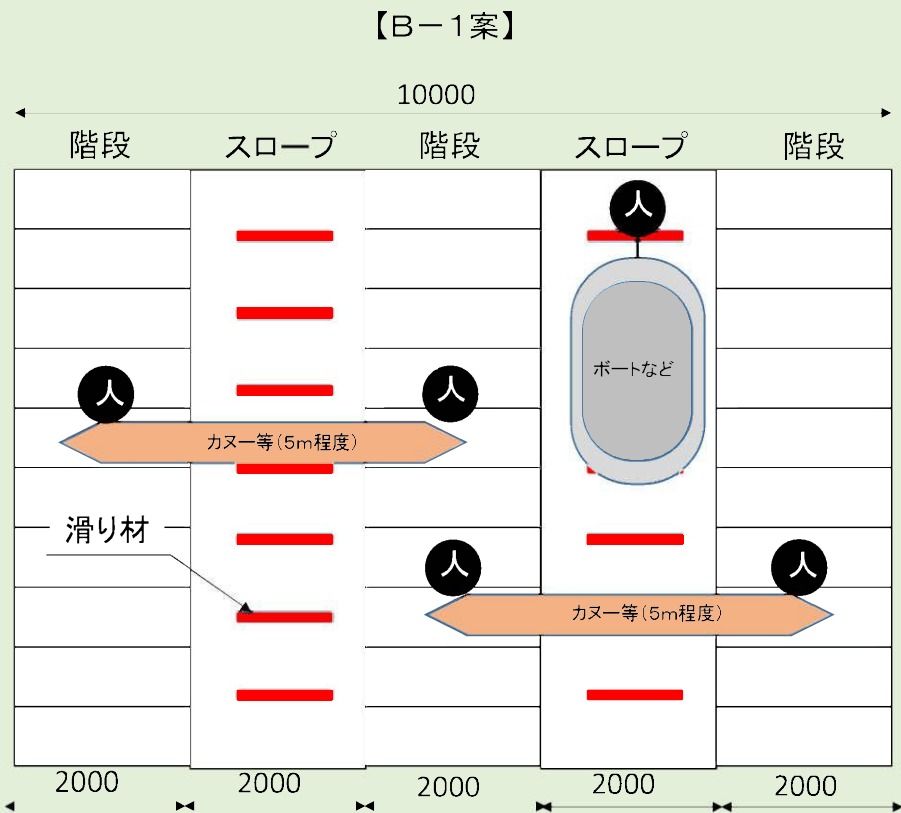
- 階段の間に上下架用の滑り材付きの坂路を設けることで、幅広い艇種の上下架に対応可能
- 階段と坂路の両方を設けることから、複数名での上下架や単独での上下架など利用の汎用性が広がる
- 坂路部に設置する滑り材を足掛かりとして利用可能であることから、3列の階段間において横方向への移動が可能
- 流水方向に直行することから土砂等の堆積に対する維持管理を容易に見込むことが可能

横断計画



(1) 親水護岸の整備(国整備)

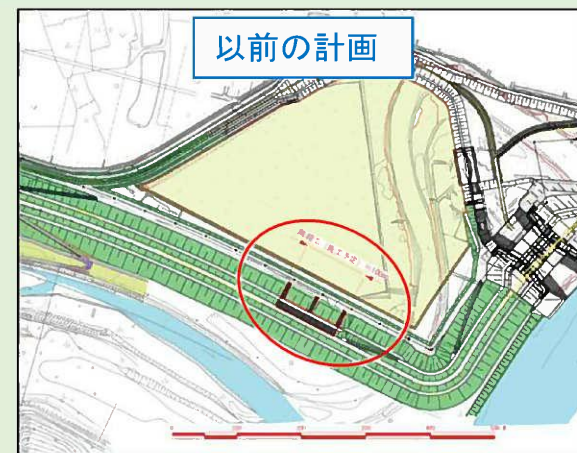
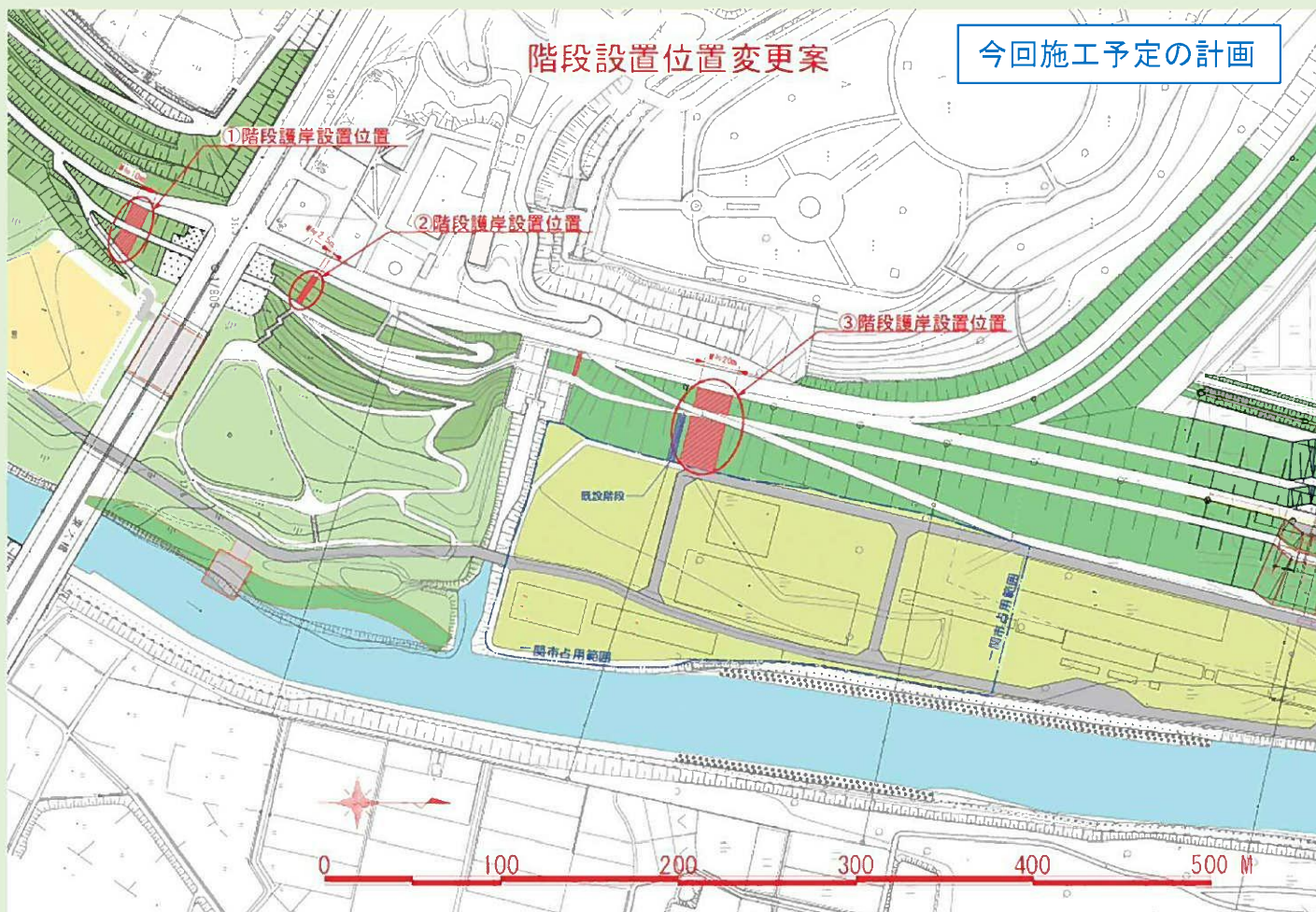
(坂路と階段の利活用の考え方)



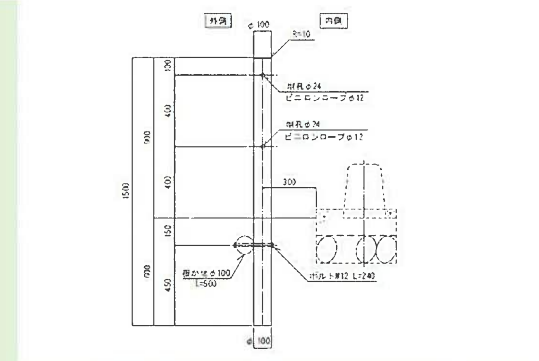
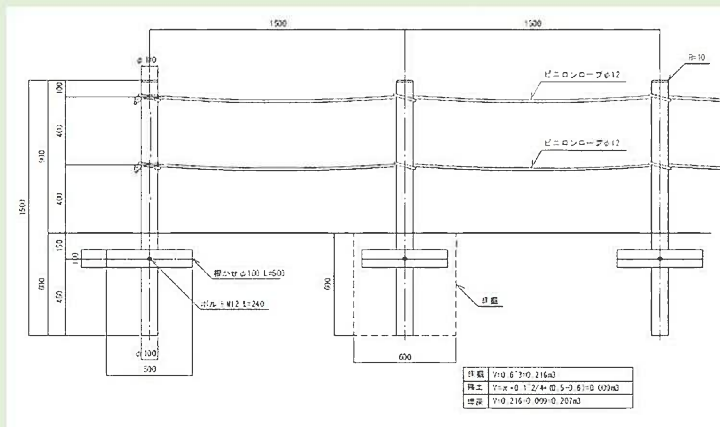
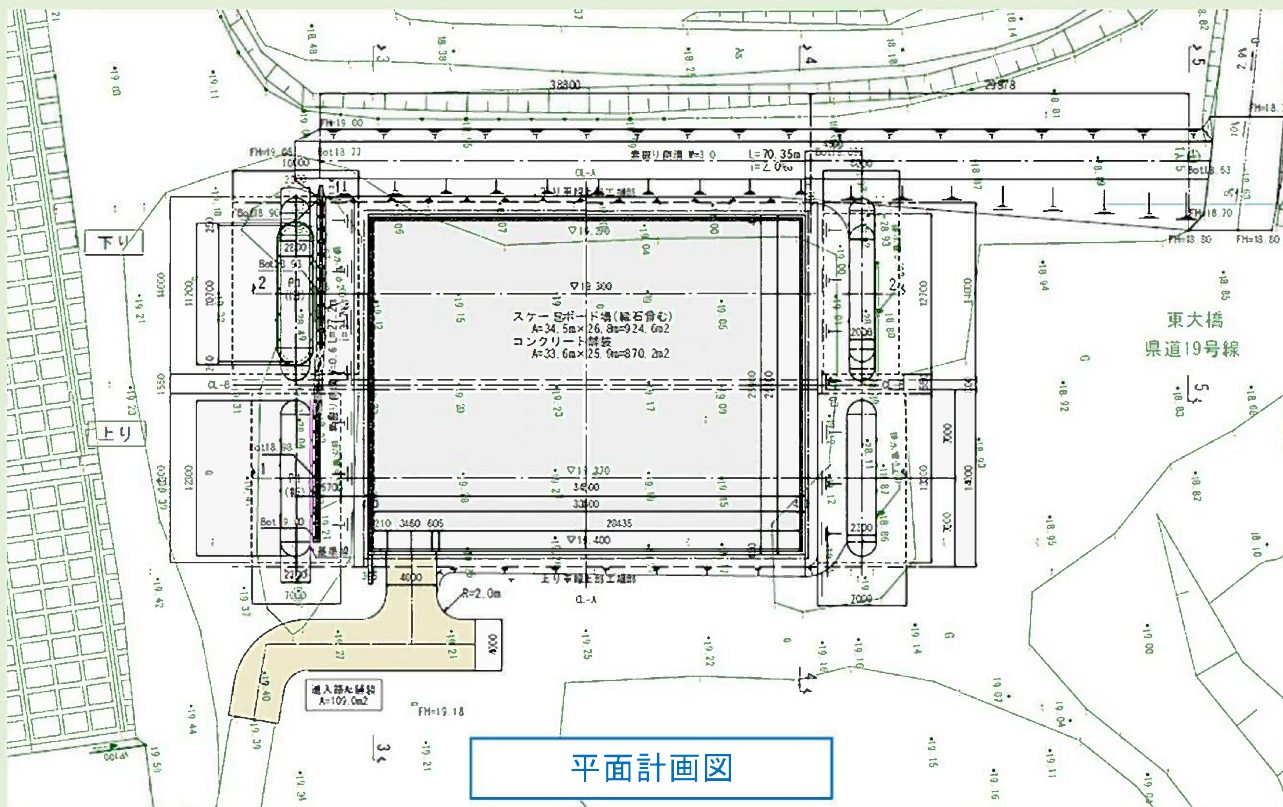
- カヌーツアーなどで一度に複数の艇の利用を想定した場合、A-1案が利便性に優れるが、車両牽引が必要となるような大型のボート等には対応が難しい。
- 車両牽引が必要となるような大型のボートの利用を想定する場合、A-2案のように坂路を階段とは別構造とすることが有利である。ただし、スロープの勾配を緩くできないことから坂路内に車両を進入させることは困難であり、ウィンチ等を用いることが想定される。

(2) 堤防法面への階段設置位置の変更(国整備)

- 前回協議会提示資料において、遊水地地内湛水池の右図の位置へ階段を施工予定であると示していたが、河川敷の利活用計画の修正に併せて、水辺プラザ側の川表側に階段護岸を設置する計画に修正し、現在工事発注の準備を進めている。



(3) スケートボードパークの整備(市整備)



- 前回協議会提示資料の規模で実施設計を完了、工事発注予定
- パーク周囲は縁石を立ち上げ、セクション等のストッパーとして活用
- 外周にロープ柵を設置し、車両等の誤進入を防止(前回協議会指摘事項への対応)

5. 社会実験の経過と予定など

(1) 令和5年3月に選定された社会実験活動団体が今年度実施したイベントについての報告

日時: 令和5年5月5日(金・祝日) 10:00~16:00
 主催: 磐井川まちづくりの会
 内容: キッチンカー5台、ハンドクラフト5店舗、その他物販店舗が出店
 (同時開催) 猫の譲渡会



日時: 令和5年6月3日(土) 10:30~16:00
 主催: いちのせきMusic Festival
 内容: 無料音楽イベントを開催
 キッチンカー等5台が出店

日時: 令和5年7月16日(日) 10:00~16:00
 主催: 磐井川まちづくりの会
 内容: キッチンカー、ハンドクラフト店等23店舗(同時開催)「時の音プロジェクト」9団体出演



(2) その他のイベントの実施報告

● 「まちあるき体験ツアー」を実施



日時：令和5年4月16日（日） 10:30～12:00
 主催：一関地区かわまちづくり協議会
 「第6回やまのめ桜まつり」（山目地区まちづくり協議会主催）と同時開催
 「いわいの里ガイドの会」のご協力により実施
 参加者：14名参加（市HP及び岩手日々新聞へ掲載で募集）

- ・ウォーキングの機会がなく、歩かないのでよかった。また歩きたい。
- ・ガイドがついたのがよかった。
- ・丁度よい距離だった。
- ・定期的に開催し、他の地区も回ってはどうか。
- ・ガイドの方が資料等（映画に使われたチラシや映画のシーンのコピーなど）があり興味深い内容だった。
- ・まちあるきはガイドの力が大きいと思った。
- ・歩きながら市内のスポットを巡るのは、今までにやったことがなく勉強になりました。
- ・一関には歴史があるので、掘り下げると色々な要素があり、もっと活用できるものがあると再認識しました。
- ・所要時間は適当だと思われる。
- ・途中で休憩ポイントがあると尚よいと思われる。
- ・本当に地元生まれ、ほとんど知らなかった新たな知識をいただきました。
- ・私をはじめ、地元の人には知っておきたいです。
- ・歩きやすい地図、ポイントがあり、自分たちで歩けるとよい。
- ・鑿井川に親しんでもらいたい。
- ・こいのほりを復活させたい。
- ・身近なまちの知らない歴史を知ることができ、興味深かった。
- ・良い企画でした。

(3) 今後の予定

利活用団体が9月にイベント開催を計画しており、詳細について今後協議を進める



(4) その他の報告事項

6月18日（日）に宮城県大崎市「江合川かわまちづくり協議会」より一関地区かわまちづくり計画に関する視察依頼を受け、事業説明を行った。
 大崎市では地域住民と地元企業の協力のもと、国の「かわまちづくり支援制度」を活用し、宮城県大崎市古川桜ノ目周辺地域と環境衛生市越をつなぐ新たな地域の魅力づくりを進めるため、令和5年度の事業計画登録を目指し協議を進めている。